

「偶然」を撮る執念が生んだ自信

水口東高校写真部は、活発な活動で毎年優秀な作品を生み出しており、今年出展した日本写真家協会が主催する「JPS展」では腕に自信のある2,387名に交じって、20歳以下部門で3名(入賞者39名)の部員が入選を果たしました。入選に活気づく部室を訪ねました。

Q1 写真はいつごろからはじめたのですか。

落合、横川：一眼レフカメラを使い始めたのは、高校に入ってからです。まだまだ経験が足りません。

中村：僕は、趣味が写真だった父の影響で中学時代から既に撮り始めていたのですが、自分ではまだこれからだと思っています。

Q2 「まだまだ」といながらも、三人も入選するのはすごいことではないですか。

一同：「偶然」良い写真が撮れたという思いがあるので、「まさか」というのが本音です。

大橋先生(顧問)：こんなことを言っていますが、彼らのその「偶然」を撮るための思いはすごかったと思います。まさに執念のたまものですね。

Q3 そこまでの執念でつかんだ入選は、大きな自信になったでしょう。

横川：一年生の時、本気で入選を狙ったコンクールで落選し、悔しかった思いをここで晴らしました。すごく達成感があります。

落合：親戚をはじめ、色んな人から連絡があって入選した実感とともに自信や夢が湧いてきました。

Q4 それでは、今後の抱負をお聞かせください。

中村：僕はまだ二年生なので、これからさらに部活に打ち込んで、もっと納得できる作品を撮っていきたいと思っています。

落合：僕は写真で得た自信と技術を基に、ハリウッドでも活躍できるような映像クリエイターをめざしています。まずは、受験に集中しないとはいけませんが、それも将来の夢につながる道なので、これからは写真と勉強を両立させながらがんばっていきます。



ユース・プラス・フェスティバル2012

市内7中学校の吹奏楽部が一同に会して演奏を披露する「ユース・プラス・フェスティバル2012」が6月2日、あいこうか市民ホールで開催されました。この催しは、水口ロータリークラブが新世代育成事業の一環として主催し、毎年多くの方がこの時期に奏でられる演奏を楽しんでいます。

この日も、楽器の音色や、生徒たちが観客を迎える挨拶で賑わう会場に、年に一度の共演を楽しもうと、席を埋め尽くさんばかりの観客が詰めかけました。テレビや映画でおなじみの曲が演奏されると、子どもからお年寄りまで多くの観客が手拍子を打ったり、肩でリズムをとったりして演奏会を楽しんでいました。



▲演奏を披露する中学生たち

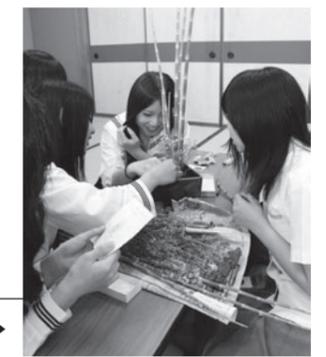
水口高校生、台湾の高校生と国際交流

華道で熱烈歓迎

台湾の永春高等中学校の生徒らが6月5日、水口高校を訪れ、同校国際学科の2年生と華道を体験し、交流を深めました。

歓迎式では、お互いの生徒代表が流暢に相手国の言語でスピーチを披露し、生徒一人一人も、一言づつ互いの言葉で自己紹介をしました。

生徒らは、言葉が通じないことで、最初はコミュニケーションをとることに苦労していましたが、作品が出来上がり記念撮影が始まると、あっという間に打ち解けた様子で、国境を越えた同世代の若者同士が楽しそうに交流していました。



いけばなで国際交流▶



元気なまちかど

わんわんパトロール員発足式

この日はわんわんパトロール員12名が、隊員の印である緑色のバンダナを巻いた愛犬と共に啓発チラシを配付しました。

今後はこのバンダナを付けたわんちゃんたちが地域の安全に役買います。



▶愛犬と一緒に地域の安全を守ります

愛犬とともに 防犯を呼びかけ

土山町で「わんわんパトロール」が始まり、その発足式が6月7日、「道の駅」あいの土山で行われました。

「わんわんパトロール」は、地域の方が犬の散歩をしながら、不審者などを見つけた場合は110番通報をしたり、またこういった形でパトロールを行うこと自体により、犯罪の抑止力を期待するものです。

今回、甲賀警察署が地域内の愛犬家に協力を呼びかけて実現し、県内では初めての取り組みとなります。

クッキングママ

水口小学校に通う児童のお母さんたちが集まり、子どもたちに手作りのお菓子を食べさせたいという思いから平成3年から「クッキングママ」が活動を続けています。

結成から20年以上が過ぎた今年から、OBら新旧のメンバーが集まって、水口町の伝統野菜「かんぴょう」を使ったお菓子ができないかと、専門知識を持ったJAこうかの職員を招いて勉強会が開かれています。勉強会ではOBメンバーやJA職員の知恵を借りて、どうしたら児童に喜んでもらえるお菓子をつくることできるかと、熱心に議論が交わされました。



▲どうしたら子どもたちは喜んでくれるかな

甲賀流免許皆伝をめざして

第5回忍者検定



▲忍者で賑わうプララ

今年で五回目となる「忍者検定」が6月10日、甲南町の忍の里プララで開催されました。

受験者数は全国から過去最多の118名が参加しました。

独自の忍者衣装も加点対象とあって、受験者のほとんどが思い思いの装束を身にまとい、筆記試験のほか、手裏剣投げの実技で忍者の素質を競い合いました。